CO・OP

サステナビリティレポート2022

これは、日本生活協同組合連合会が、全国の生協（コープ）の環境・サステナビリティの取り組みをまとめたレポートの、サマリー版です。

日本生活協同組合連合会は、各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会です。生協には地域購買生協、大学生協、学校生協、職域生協、医療福祉生協など様々な生協がありますが、ここではおもに店舗や宅配事業を展開している地域購買生協を取り上げています。

レポート本体は
こちらから
ご覧いただけます

2023年4月発行

日本生活協同組合連合会

「すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ」

生協は2021年に「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を策定しました。この政策は、持続可能な社会を実現するために、全国の生協の事業と活動で推進する2030年までの政策です。上記のスローガンのもと、10の行動指針と5つの目標の実現を社会に約束しています。

数字で見る生協（コープ）

ひと
組合員 約2千3百万人　正規職員 約3万人

もの
店舗数 約930店　宅配車両（委託含む） 約2万5千台

出資金
約7千6百億円

総事業高
約3兆1千億円

自治体との協定締結数
包括連携協定 約190件
緊急時物資支援協定等 約900件
地域見守り協定 約1,280件（全市区町村の73.6%）

※上記の数値は自治体との協定締結数を除き2021年度実績です

生協の環境・サステナビリティ政策「10の行動指針」

行動指針1
エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます

行動指針2
生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます

行動指針3
再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します

行動指針4
生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます

行動指針5
生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します

行動指針6
生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます

行動指針7
サプライチェーンを通して、人権を尊重し環境に配慮した「責任ある調達」を進めます

行動指針8
組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します

行動指針9
環境・サステナビリティに関わる諸課題を解決するために、新たな協働の取り組みにチャレンジします

行動指針10
生協の環境・サステナビリティに関わる取り組み状況を積極的に公開し、社会との対話を進めます

組合員と一緒に持続可能な地球と社会のために活動しています

エシカル消費に取り組んでいます

個性的なキャラクターを用いた広報、商品カタログや店舗においてサステナブルな商品を探すキャンペーンなど、組合員がエシカル消費に楽しく取り組める活動を広げています。

画像提供：コープあいち

フードドライブ(※)を行っています

画像提供：いわて生協

組合員から寄贈された商品を、フードバンクや社会福祉協議会などを通じて子ども食堂や生活困窮者支援団体などへ寄贈しています。

(※)フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらを取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。生協では、店舗や宅配で購入した商品をその場で寄付する活動も行っています。

環境保全活動に取り組んでいます

画像提供：いばらきコープ

組合員や地域の環境団体とともに、植樹や森づくり、藻場の再生事業、海浜や湖の清掃、水質改善活動、里山の休耕地解消などの環境保全活動を行っています。

回収・リサイクルで限りある資源を大事にしています

店頭のボックスや宅配での商品お届けの際に、ペットボトルや紙パック、食品トレイ、商品カタログなどを回収し、リサイクルしています。

画像提供：コープこうべ

コープ商品「コープサステナブル」とは

日本生協連が開発しているコープ商品では、環境や社会に配慮した主原料を使った商品を、2021年3月から共通のロゴマークを付けてシリーズ化し、「コープサステナブル」として展開しています。さまざまな認証ラベルが登場する中、共通のロゴをパッケージに表示して視認性を高め、売場でより多くの組合員が「見つけて、選べる」ようにすることで、「エシカル消費」に参加しやすくしています。

「コープサステナブル」シリーズの認知度も年々高まり、供給高も順調に伸長しています。

海の資源を守る

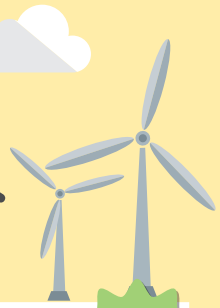
森の資源を守る

ra.org/ja

Organic

リサイクル材使用

5つの数値目標と生協の環境・サステナビリティの取り組み



目標1 CO_2排出量を2030年に40%削減（2013年度比）します

- 再生可能エネルギーの利用を積極的に進めています（再生可能エネルギー導入率49%※1）
- 省エネ設備やノンフロン※2の冷蔵冷凍ショーケースを導入したエコストアを出店しています

画像提供：エフコープ（Nearly ZEB※3仕様本部事務棟）

- 配送トラックでのバイオディーゼル燃料の使用や、EV化の実証実験を進めています

※1 全国の生協が調達している電気の、電源構成における再生可能エネルギーの割合
※2 オゾン破壊係数がゼロであり、代替フロンと違って地球温暖化係数が低い冷媒のこと
※3 Nearly ZEBとはZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）に限りなく近い建築物のこと

目標2 2030年までに年間発電量4億kWhの再生可能エネルギーを開発します

- 50生協が579か所で、約2億kWhの再生可能エネルギーを創出しています
- 風力発電やバイオマス発電、小水力発電、ソーラーシェアリングに関わっています

画像提供：生活クラブ連合会

- 地域と連携し再生可能エネルギーの開発を進めています

目標3 使い捨てプラスチック容器包装の使用量を2030年に25%削減（2018年度比）します

- 商品パッケージのプラスチック使用量の削減を進めています※4
- 店頭や宅配のお届け時に容器包装などを回収しています※5

GOOD DESIGN AWARD 2022 BEST 100

画像提供：バルシステム連合会

- 回収したペットボトルなどをリサイクルする取り組みを広げています

※4 コープ商品ではサイズ・厚さ縮小、紙化、トレイ取りやめなどを進めています。再生・植物由来プラ包材使用製品も800品近くとなっています
※5 飲料紙パック約5,100トン、ペットボトル約3,600トン、食品トレイ約1,900トン、卵パック約2,400トン

目標4 商品カタログに使用する紙使用量を2030年に25%削減（2021年度比）します

- アプリやWebカタログの利用を広げて、紙の商品カタログの配布停止を選択できる仕組みを導入しています※6
- 45生協が商品カタログに再生紙や認証紙などを使用しています

画像提供：コープデリ連合会

※6 すべての生協の事例ではありません

目標5 食品廃棄物を2030年に50%削減（2018年度比）します

- 食品リサイクルを積極的に進めています（食品リサイクル率は全国生協の平均で75%※7）
- キズやサイズ違いで規格外になる農産物や天候被害果実などを取り扱っています
- 店舗では期限が近い商品の購入を促す「てまえどり」運動を展開しています

画像提供：コープさっぽろ（生ごみ処理機）

※7 食品廃棄物の発生量のうち、飼料や肥料等に再生利用した量の割合

※数値は日本生協連が64生協を対象に実施した調査実績（2021年度）です。本紙に記載の事例はすべての生協が実施している内容ではなく、特定の生協で実施されている事例も含まれています。